

ガソリンスタンドでタンクローリーが爆発火災、原因は携帯電話か？

動画共有サービスを行っている YouTube (<http://www.youtube.com/>) で、“gas station fire” のキーワードで検索をしてください。世界中のガソリンスタンドの火災ビデオを見ることが出来ます。その中に、下記のようなセルフスタンドの火災事例のビデオがあります。

- ・給油中に運転席に戻り、給油終了後、再びノズルに触れた時の給油口火災
- ・静電気着火による着衣火災
- ・ガソリンをばらまいた後、マッチで火を付けた放火
- ・荷台の容器にガソリンを充填中の火災
- ・英語が読めず、話せずの客が、セルフスタンドの操作がわからず、誤って”火災”ボタンを押して、天井の粉末消火器が起動
- ・給油中のタンクローリーが爆発・火災を起こし、ローリーの上に乗っていたスタンドの従業員が火傷を負い3日後に死亡

この内、ローリーの火災は、2007年11月19日に起きたもので、ポルトガル語の表示があることから、サンパウロのシェルのスタンドと見られています。ローリーの上に乗っていたスタンドの従業員が携帯電話に出たところ（ローリーの上に置いた自分の携帯電話を取りに上ったとも言われている）爆発が起きたため、携帯電話のスパークによる火災と報じられていますが、携帯電話による着火はあり得ないという書き込みもあります。

ESD Journal（静電気に関するさまざまな情報を提供している米国のウェブサイト）では、2008年2月19日付けの記事で、この事故の原因について、①人体帯電、②車体帯電、③携帯電話、④喫煙、⑤車のエンジン等の可能性に関する意見を募集しています。（<http://www.esdjournal.com/static/Shell/shelltruckfire.htm>）

携帯電話による火災の可能性については、本シリーズの「最近の事故事例に学ぶ No.19」及び当協会機関誌 Safety & Tomorrow No.117(2008.1)「米国セルフスタンドの火災」に紹介しましたように、膨大な火災事例の中で携帯電話が原因となった事例は皆無です。しかし、“世界で最初の携帯電話による火災事例”という記事が後を絶ちません。火災事例は無くても、本質安全防爆構造となっていないため、携帯電話による火災の可能性はゼロではなく、「携帯電話で引火する可能性は極めて低い」というのが現実と思われます。

“gas station woman”で検索すると、給油機に対して、車の給油口が反対側になるように駐車し、無理矢理給油ホースを延長しようとした滑稽なビデオを見ることが出来ます。休憩の時にでもトライしてみてください。